

教師の発問に生徒が答える

1 はじめに

授業では教師の発問に生徒が答える場面は多いです。授業を見せてもらって気づいたことをまとめました。

2 教師が発問したとき

×1問1答

- ・一つの発問に対して、1名を指名して答えさせる。正解なら、次を指名することはない。
- ・できる生徒で授業が進められる。分かっている生徒だけで授業が進んでいく。

△1問多答

- ・一つの発問に対して、複数名を指名する。
- ・分かっている生徒だけで授業が進められる危険性がある。
- ・教師は生徒の意見を繋げていくような言葉がけをしたい。

×オウム返し

- ・生徒の答えを教師がオウム返しで繰り返す。
- ・先生が言ってくれるので、友だちの意見を聞かなくて済む。友だちの意見を聞かないようになる。

×教師が要約する。

- ・生徒が発言した内容を教師が要約することで、教師の都合のよいように変わってしまう危険性がある。

<指名の仕方>

×挙手による指名だけで授業が進んでいく。

分かっている生徒だけで授業が進んでいく。

分からなくても、考えなくても授業が進んでいく。

教師からの指名をいれることで、授業に緊張感が生まれる。

×教師からの指名だけで授業が進んでいく。

自主的に手を挙げても当たらない。手を挙げようとしなくなる。

挙手による指名を入れることで、授業が活発になる。

×発言者1名を指名し、発言が終わったら、次の1名を指名する。

指名するときに間延びする。

○指名するときは2～3名まとめてする。

○生徒が生徒の意見に繋げて発言するように言葉がけをする。

- ・「関連してどうですか。」または、「意見をつなげて」「～さんと同じで…。」「～さんとは反対で…。」「～さんとは少し違って…。」
- ・他にどうですか。

○声が小さくて聞こえない

他の生徒に「聞こえましたか。」と問う。

生徒:はい → 教師:「何と言っていましたか、教えて。」
生徒:いいえ → 教師:『聞こえないときは、「聞こえません」と言います。』
もう一度発表させる。
それでも聞こえないときは、「彼は何といていたか、誰か助けて。」
と周りの生徒に聞く。

○手が挙がる人数が少ない

手が挙がらないのは、自分の答えに自信がないからであろう。
「ペアで交流しなさい。」 誰かと答えを確認し合うことで自信がつき、手が挙がりやすくなる。

質問と課題の使い分け

質問:誰でも分かること、既に学習したこと
課題:じっくり考える問題、本質に迫る問題

ペアとグループの使い分け

質問については、ペアで交流する。答え合わせをする。
課題については、班で相談しながら解決する。
分からないことは班の子に聞く。聞かれたら必ず応える。

○学習課題について全体で交流するとき

①まず、「困っている人はいませんか？」からスタートする。この子が課題解決できるように全体交流を進める。

最後に、分からないことを言ってくれたことに対して、賞賛の言葉を学級全体にかける。

② 全体交流で教師が発する言葉は次の4つだけ。

- ・ 意見を深めていくとき、「意見をつなげて」
- ・ 意見を広げるとき、「他はどうですか。」
- ・ 子どもの声が小さいとき、「聞こえましたか。」
- ・ 子どもの発言の趣旨、意味が不明なとき、「先生は今の意見がよく分からないので、誰か言い換えて。」

○学習課題について全体で交流するとき(別案)

- ①困っている人はいませんか。
- ②教師から2～3名指名する。
- ③関連する意見をどうぞ。
関連する意見がなくなったとき
- ④他の意見をどうぞ
関連する意見を求める。
意見がでない、意見が煮詰まったとき
- ⑤教師から2～3名指名する。

3 おわりに

ぜひ実践していただき、成果と課題を共有したいものです。